

IEICE トランザクション 情報システム (D) 分野では“次世代セキュリティの応用と実践小特集”という表題の小特集を 2022 年 11 月号に掲載予定です。

5G 通信の普及に伴い、更なる ICT プラットフォーム技術の進化とともに新次元のつながり (Hyperconnectivity) の時代の往来が垣間見られつつあります。例えば、自動車やロボットから収集された情報は即座にサーバに転送される状況下において、人工知能技術の利用促進が期待されています。加えて、スマートフォンなど携帯端末から収集されるデータも、従来の個人情報と比べて、進展が著しくなっています。そのような背景から、生活のあらゆる側面において人工知能との連携や機器の常時接続が求められるなど、インターネットの爆発的な普及もされています。例えば、スマートシステムやスマートカー、スマートクロックなどのウェアラブルデバイスが実際に利用されています。常時接続環境では、モバイル端末は本質的に個人個人に対するゲートウェイとなり、モノとつながることでビジネスへの大きな展開や、多種多様なデータを交換することで新たな可能性の創出にもつながっています。これは検討されるべきセキュリティやプライバシーの問題も多く含むことにもなっています。

このような背景を受け、本小特集の狙いは研究者、実務担当者、為政者、ハードウェア及びソフトウェアを連携させることで、デバイス、アプリケーション、システム各要素におけるセキュリティとプライバシーの理解と発展を模索することにあります。とくに、革新的な情報セキュリティ技術や今後の 5G, Industry 4.0, Society5.0 や ICT プラットフォーム、サプライチェーンの発展に迅速に適応できるような実践的知見を対象にします。

本小特集はセキュリティ応用技術及び CT プラットフォームの実践を指し示すことを目的として、信学会トランザクション-情報システム分野-に提案しています。本小特集は 2021 年に開催される韓国の情報セキュリティに関する代表的国際会議・World Conference on Information Security Applications (WISA 2021) と連携しています。また、WISA 2021 への投稿に限らず、一般からの論文投稿も広く募集します。

1. 対象分野

本特集号の対象分野は主に以下の分野を対象とします。これら以外の内容についても、積極的な投稿を歓迎します。

- ・アクセス制御
- ・AI のセキュリティ
- ・実世界のネットワークとセキュリティプロトコルの解析
- ・匿名性及び検閲耐性を持つ技術
- ・暗号技術応用
- ・認証・認可技術
- ・ソースコード・バイナリ解析技術とその自動化
- ・車載セキュリティ
- ・ボットネット対策
- ・ブロックチェーンベースセキュリティ
- ・インフラ・セキュリティ
- ・DoS 攻撃とその対策
- ・デジタルフォレンジック
- ・エッジコンピューティング・セキュリティ
- ・組み込み機器セキュリティ
- ・エクспロイト技術とその自動化
- ・ハードウェア及び物理セキュリティ
- ・HCI セキュリティ・プライバシー
- ・侵入検知・防御
- ・マルウェア解析
- ・モバイル／ワイヤレス／携帯システムセキュリティ
- ・軽量／応用暗号
- ・ネットワーク攻撃
- ・ネットワーク／エッジセキュリティ
- ・ネットワークインフラセキュリティ
- ・オペレーティングシステムセキュリティ
- ・暗号応用解析 (ハードウェア, DRM など)
- ・セキュリティ応用と事例研究
- ・セキュリティポリシー／管理
- ・サイドチャネル攻撃とその対策
- ・ストレージ及びファイルシステムのセキュリティ
- ・セキュアシステムの設計技術
- ・信頼計算
- ・信頼された実行環境 (TEE)
- ・自動車・ドローン・船籍システムなど無人システムのセキュリティ
- ・サプライチェーンセキュリティ
- ・脆弱性調査
- ・ウェブセキュリティ

2. 論文の執筆と取扱い

- ・通常の英文論文と同一とします。
- ・ページ数は、原則として、論文の場合は刷り上がり 8 ページ、レターの場合は刷り上がり 2 ページを標準とします。初期投稿時のレターの最大ページ数は 4 ページです。標準ページ数を超えると、掲載料が急に高くなりますの

で御注意下さい。詳細は Information for Authors (https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html) を御参照下さい。

- ・査読後の再提出期間（通常は 60 日）を短縮する場合があります。

3. 投稿方法

- ・Web による電子投稿のみ受け付けます。 https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx より登録を行って下さい。
- ・初期投稿時に、編集可能な論文本体 (TeX/Word)、図、著者の写真、biography も投稿する必要があります。なお登録時には必ず“Journal/Section”で [Special-NG] Next-generation Security Applications and Practice を選択して下さい。 [Regular-ED] を決して選択しないで下さい。
- ・Web による電子投稿の際、“Copyright Transfer, Article Processing Charge Agreement, Notices from the IEICE, and Privacy Policy”に承諾して頂きます。

4. 論文投稿締切日 2022 年 2 月 10 日 (木) 厳守

5. 問合せ先

矢内直人 (やない なおと) 大阪大学・大学院情報科学研究科

TEL [06] 6879-4517, FAX [06] 6879-4519

E-mail : yanai@ist.osaka-u.ac.jp

6. 小特集編集委員会

編集委員長 Ilsun YOU (Soonchunhyang Univ., Korea)

幹事 SeongHan SHIN (AIST), 矢内直人 (阪大)

編集委員 Pelin ANGIN (Middle East Technical Univ., Turkey), Yuanlong CAO (Jiangxi Normal University, China), Doocho CHOI (Korea Univ., Korea), Haehyun CHO (Soongsil Univ., Korea), Jason Paul CRUZ (阪大), Swee-Huay HENG (Multimedia Univ., Malaysia), Hyunho KANG (National Institute of Technology, Tokyo College), 菊池浩明 (明治大), Hwankuk KIM (Sangmyung Univ., Korea), Jongkil KIM (University of Wollongong, Australia), Manhee LEE (Hannam University, Korea), Mun-Kyu LEE (Inha University, Korea), 村上隆夫 (AIST), 西垣正勝 (静岡大), Ki-Woong PARK (Sejong Univ., Korea), Kunwar SINGH (NIT Trichy, India), Sang Uk SHIN (Pukyong National University, Korea), 須崎有康 (AIST), Amril SYALIM (Universitas Indonesia, Indonesia), Samuel WOO (Dankook Univ., Korea), 山口利恵 (東大), 山内利宏 (岡山大), Siu Ming YIU (Univ. of Hong Kong, Hong Kong), Baokang ZHAO (National Univ. of Defense Tech., China)

7. 付記

- * 締切日を厳守して下さい。
- * 招待論文を含むすべての著者は、論文が採録となった場合、2022 年 7 月頃に掲載料をお支払い頂くこととなります。2022 年 8 月 15 日までに支払いが完了しない場合には、採録取り消しとなります。
- * 著者全員が非会員でも投稿が可能になりました。但し、非会員掲載料が適用されます。この機会に入会をお勧めします。入会の案内 (<https://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html>) を御覧下さい。
- * オープン化：2017 年 1 月号以降に掲載された電子情報通信学会英文論文誌 D のすべての論文を、J-STAGE を通じて全世界の読者へ公開しています。2020 年 1 月号以降に掲載される論文には、電子情報通信学会の多くの論文誌で適用することができるオープンアクセスオプションを適用することができなくなります。(オープン化は、2020 年 1 月以降も継続する予定です。) オープン化とオープンアクセスオプションに関する詳細は、“Information for Authors” (https://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html) を御参照下さい。オープン化とオープンアクセスオプションに関しては、予告なく変更されることがあります。